天神祭ごみゼロ大作戦の取り組み

天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会
事務局長
岡見（おかみ） 厚志（あつし）

はじめに

天神祭は、7月24、25日の二日間に渡り開催される大阪を代表するお祭りです。コロナ禍を乗り越え、4年ぶりに露店の出店が復活した天神祭には132万人の来場者が訪れ、4年前を上回る賑わいが戻りました。

2016年、ごみゼロ大作戦実施前の調査では、約60トンのごみが排出されており、99％が分別されずに焼却処分されていることがわかりました。また、会場内には、散乱ごみが至る所で発生していました。

そこで、2017年に実行委員会を立ち上げて、一部地域で試行的に「天神祭ごみゼロ大作戦」をスタート。2018年には活動エリアを大川沿いの全域に広げ、2019年の同エリアで実施しました。ところが、2020年、新型コロナウィルスの流行に伴い、天神祭が神事のみとなり、天神祭ごみゼロ大作戦も中止せざるをえませんでした。2023年、天神祭がコロナ以前の完全な形で復活すると決まったのは、5月でした。そこから始動し、約2か月間で準備を進め、一部エリアでの復活が実現しました。

協働取組としてのごみゼロ大作戦

大阪には、資源循環に取り組む市民団体、NPOが複数あります。それぞれが、地域での地道な活動に取り組んでいましたが、大きなアクションに繋がっていないという現状がありました。そんな中、祇園祭ごみゼロ大作戦が取り組まれていることを知り、大阪でも各団体が協力すれば同じ日本三大祭の天神祭でごみゼロ大作戦ができるかもしれない、という発想が生まれました。

そこで、2016年に6つの市民団体・NPOが集まり調査を開始。その後、2017年に事業者、行政が合流して「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」が結成されました。みんなが知っている大きなお祭りだからこそ、組織の垣根を超えて、協働することができたと感じています。

ごみ減量の効果

天神祭ごみゼロ大作戦では、主に以下の3つの作戦を実施しています。

①エコステーションでの分別回収（写真1）
②露店へのリユース食器の導入
③散乱ごみの拾い歩き

エコステーションでは、ボランティアスタッフが分別回収の呼びかけを行います。

写真1　天神祭のエコステーション

表1　エコステーション等で分別回収された資源物　単位：kg

		2017	2018	2019	2023
リサイクル（資源化）	びん	430	474	160	170
	かん	150	850	530	390
	ペットボトル	230	680	370	310
	ペットボトルの蓋	23	60	30	26
	ダンボール		330	80	0
	小計	833	2394	1170	896
リユース（再利用）	うちわ	20	28	6	18
総　量		853	2422	1176	914

エコステーションでの取り組みによって、これまで焼却されていた資源物がしっかりとリサイクルされることに繋がります（表1）。

エコステーションの取り組みだけでは、排出されるごみの総量は減らすことができません。そもそもごみが出ない仕組みをつくるために、繰り返し使えるリユース食器を露店に導入しています（表2）。

散乱ごみの拾い歩きは最終手段として実施し、散乱ごみについても分別し、資源化しています。

表2　導入されたリユース食器

	2017	2018	2019	2023	単位
採用数	16,080	17,000	19,620	16,680	食
紛失数	3,842	1,215	1,478	1,042	食
回収率	76.1	92.9	92.5	93.8	%

環境教育の視点から見たごみゼロ大作戦

これまで、天神祭ごみゼロ大作戦に参加したボランティアの数は累計約4,000名です。ボランティアに参加するためには、事前の研修に参加する必要があります。研修では、当日の運営の流れなどの他に、基本的な資源循環に関する知識をインプットします。それを通して、活動に参加し、さらに自らが声掛けをする側に立つことで、ボランティアに参加した人たち、一人ひとりの環境意識の向上が望めます。

また、当日のボランティア活動のサポート役として、ボランティアリーダーの育成も行なっています。リーダーは、5月から複数回行われる研修に参加し、資源循環のレクチャーに加えて、実地研修を経て、より活動への理解が深まります。

多くの人々に資源循環に関する研修に参加いただこうと思うと非常に困難だと思いますが、「天神祭」という大イベントで関心を引くことで、これだけ多くの市民に、体験も含めた研修を実施できているということは、この取り組みの大きな意義だと感じています。

これからに向けて

2023年は、準備期間が非常に短く、また4年間のブランクがあったこともあり、ボランティアの募集・育成、資金調達等、たくさんの課題が表面化しました。2024年以降は、これらの課題を解決しながら、活動を進めていきます。

この活動を通して、少しでも多くの地域の方がごみゼロに共感いただき、ごみゼロに取り組むイベントや祭が増えることを願っています。

BY-NC ©2024 岡見 厚志　この記事はクリエイティブ・コモンズ［表示 - 非営利 4.0 国際］ライセンスの下に提供されています。　https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja